

分野	授業科目	単位 (時間)	進度	担当
専門基礎分野	臨床薬理学	1 (30)	1年後期	横田 崇 実務経験あり
科目目的	薬物の薬理作用と人体への作用・副作用を理解し、薬物療法時の治療効果の観察や副作用を早期に発見し、安全に対応するための基礎知識を理解する。			
科目目標	1. 治療薬の生体に対する作用や薬理作用の機序、副作用について系統的に把握し、薬物療法に対する基礎知識を習得する。 2. 主要な治療薬の作用機序、薬理作用、副作用、与薬に関する留意点などの知識や技術を習得し、臨床での看護の展開に活かす。			
単元名	教育内容	時間	教育方法	留意点
1. 薬理学の総論	1) 薬物治療の目指すもの 2) 薬はどのように作用するのか 3) 薬はどのように体を巡っていくのか 4) 薬効に影響する因子 5) 薬物の有害作用はなぜ起こるのか 6) 薬の管理と新薬の誕生	6	講義	視聴覚教材 (イラスト、図表) を活用し、臨床的な内容の理解を促進し、疾患、看護の知識の体系化、深化に役立つようにする。
2. 薬理学各論				
1) 中枢神経に作用する薬物	①中枢神経の働きと薬物 ②全身麻酔薬 ③睡眠薬・抗不安薬 ④抗精神病薬 ⑤抗うつ薬 ⑥パーキンソン症候群 ⑦抗てんかん薬 ⑧麻酔薬性鎮痛薬	22	講義	特に倍算・濃度・用量の計算力が弱いと思われるので、実際に演習して身につけたい。
2) 末梢での神経活動に作用する薬物	①神経による情報伝達 ②自律神経と薬の作用 ③交感神経作用薬 ④副交感神経作用薬 ⑤筋弛緩薬			
3) 心臓・血管系に作用する薬物	①高血圧薬 ②狭心症治療薬 ③うっ血性心不全治療薬 ④抗不整脈薬 ⑤利尿薬 ⑥脂質異常症治療薬 ⑦血液に作用する薬物 (ア. 貧血治療薬 イ. 造血因子の臨床応用 ウ. 血液悪性腫瘍治療薬 エ. 抗血液凝固薬 オ. 血栓溶解薬および抗血小板薬 カ. 止血薬)			
4) 呼吸器・消化器・生殖器に作用する薬物	①呼吸器系に作用する薬物 (ア. 気管支喘息治療薬 イ. 鎮咳薬・去痰薬・呼吸促進薬) ②消化器系に作用する薬物 (ア. 消化性潰瘍治療薬 イ. 健胃・消化管運動促進薬 ウ. 制吐薬 エ. 下痢と止痢薬 オ. 潰瘍性大腸炎治療薬・クローン病治療薬 カ. 駆虫薬) ③生殖器に作用する薬物			
5) 抗感染症薬	①ホルモン及びホルモン拮抗薬			
6) 物質代謝に作用する薬物	(ア. 糖尿病治療薬 イ. 甲状腺疾患治療薬 ウ. 下垂体ホルモン エ. 骨粗鬆症治療薬) ②治療薬としてのビタミン (ア. 脂溶性ビタミン イ. 水溶性ビタミン)			
7) 抗がん薬				
8) 抗アレルギー・抗炎症薬	①抗ヒスタミン薬とアレルギー薬 ②抗炎症薬 ③関節リウマチ治療薬 ④痛風・高尿酸血症治療薬 ⑤偏頭痛治療薬			
9) 免疫治療薬・皮膚科用薬・眼科用薬				
10) 漢方薬・消毒薬				
11) 救急の際に使用される薬物				
3. まとめと試験				
テキスト/その他の教材	系統看護学講座「薬理学」(医学書院)			
評価方法	筆記試験 100点で評価する。			